

令和 4 年 5 月 30 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00078

研究課題名(和文) 室町期大名の領国支配と宗教 大内氏領国との比較

研究課題名(英文) The provincial lord and the religious bodies in Muromachi era; in case of Uochis' domain

研究代表者

平瀬 直樹(Hirase, Naoki)

金沢大学・歴史言語文化学系・教授

研究者番号：10283087

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：(1)守護大内氏は所領をめぐる紛争を裁定したり、境内に禁制を下したりして、九州の山岳霊場の保護に努め、山岳霊場は祈禱による奇瑞を起こして大内氏に奉仕した。(2)同じ山岳霊場で「行」に従事する顕密寺院の中下層身分と組織外の山伏との関係について、高野山長床衆と東大寺法華堂衆の事例を検討した。山伏が中下層身分に加わるのと中下層身分が山伏に加わるのと両方向の運動により、本来は正統的な学僧が主導していた山岳霊場に修験道的な要素が増大して行った。(3)加賀一向一揆の担い手は、史料上の「百姓」、「土民」、「土一揆」という表現から判断して「村の侍」を含む多様な階層の農民たちと考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当初の研究課題は「守護大内氏による村落支配の末端の役割を果たす山岳霊場」であったが、現地調査が困難になったため(1)～(3)に目標を変更した。(1)北部九州での大内氏の宗教政策の一端を明らかにすることができた。(2)近畿地方でタイプが異なる高野山長床衆と東大寺法華堂衆の事例に注目したことにより、正統的の教学を奉ずる顕密寺院が修験化していく運動を巨視的にとらえることができた。(3)加賀一向宗の担い手に注目することによって、顕密寺院では成しえない広範な農民の連帯を指摘することができた。

研究成果の概要(英文)：(1)The Uochis made an effort to protect the sacred mountain temples in Kyushu by the determinations of the domain disputes and the declaration of the prohibition of the disturbance. And such temples did a favor to the Uochis by auspicious prayers.(2)I considered the relation of the middle-lower class monks who practice asceticism and Yamabushi group who are the outsider of the temple organization on the same mountain; in the case of Koyasan Nagatokoshu and Todaiji Hokkedoshu.The both directions movements of the middle-lower class monks' participation in the Yamabushi group and Yamabushi's participation in the middle-lower class increased the elements of Shugendo in the sacred mountain site.(3)I considered the farmers with the various hierarchies including "Samurai in the village" as the main roles of the Kaga Ikkoshu League by the historical sources.

研究分野：日本中世宗教史

キーワード：大内氏 山岳霊場 中下層身分 山伏 加賀一向一揆 長床衆 法華堂衆

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

「山岳霊場」にある寺院が村々の鎮守社と密接な関係を結び、大内氏による村落支配の末端を担うことを明らかにするつもりであった。そのため大内氏がどのような寺社を保護したり統制したりしていたかを明らかにすることを企図した。

### 2. 研究の目的

当初研究の目的は、領国内の寺社が守護に奉仕するための役割分担を明らかにすることであった。なぜこのような研究が必要かと言うと、従来日本中世の宗教的秩序の全体像を示していた「顕密体制論」が、現在では中世後期には適用できないと考えられているからである。中世後期の「宗教的秩序」は、諸国の守護と寺社の関係の総体に見出すことができると考え、様々な地方の事例を突き合わせることを企図した。

### 3. 研究の方法

#### (1) 豊前・筑前の山岳霊場と大内氏の関係

『研究紀要』1 <特集・豊前修験道> (北九州市立歴史博物館発行、1979年) に豊前の「求菩提山文書」が、『大悲王院文書』(福岡市教育委員会、1980年) に筑前の雷山の文書が掲載されており、大内氏との関係を窺うことができる。そして近年、九州で山岳霊場に対する研究が盛んになり、九州山岳霊場遺跡研究会は学会を催し、九州歴史資料館は展覧会を続けている。これらの活動による報告書や図録を参照することによって、豊前・筑前の山岳霊場について、文献・考古・美術・民俗にわたる総合的な考察を進めた。

#### (2) 山岳霊場で「行」に従事する集団

主として大日本古文書『高野山文書』(東京大学史料編纂所) から紀伊国高野山長床衆の関係史料を分析した。

平成15年度～平成17年度科学研究費補助金研究成果報告書『中世寺院における内部集団史料の調査・研究』(研究代表者 勝山清次、2006年) 収録の「法華堂文書」により、東大寺法華堂衆関係史料を分析した。

#### (3) 加賀一向一揆の担い手

加賀一向一揆は有名な「百姓ノ持タル国ノヤウニ成行」(天正三年記) という記述から農民による自治が行われたイメージを持たれて来たが、その担い手の理解についてはいまだ一定していない。そこで、『加能史料』(石川県発行) 収録の文書・記録から関係する記述を抽出し、かつそのような記述がどのような実体を表現したかを検討することによって、担い手の社会階層を考察した。

### 4. 研究成果

#### (1) 豊前・筑前の山岳霊場と大内氏の関係

大内氏は本拠の周防・長門では妙見信仰を核として寺社の信仰を領国支配に役立てていた。これに対して九州所在の領国である筑前・豊前は本来敵地であり、大内氏の支配権力の浸透は比較的遅かった。そのため文献史料の残存が良好とは言えず、両国内の山岳霊場との関係は断片的にしか説明されていなかった。

#### 求菩提山との関係

大内盛見の代、応永26年(1419)の文書が初見。学僧の集団が組織の中心であり、求菩提山は中世の正統的教義である天台宗や真言宗を奉ずる顕密寺院の特徴を示している。これ以後、大内氏は求菩提山と地元の在地領主との所領争いを裁定したり、境内に禁制を下したりして、求菩提山の保護に努めている。これに対して求菩提山は、大内氏の保護

に報いるため祈祷に励んでおり、大内義興の代では夢想による奇瑞が生じたことを報告している。大永7年(1527)の「求菩提山法度」は大内氏が僧集団の統制に関する法令を発布したものである。全十五条にわたり、大内氏の祈祷を任務とし、身分の区別に基づき僧集団を統制する旨を明記している。なお、求菩提山においても行人身分と考えられる「惣方」という集団の存在がわかる。

#### 雷山との関係

大内氏との関係がわかる文書の初見は明応6年(1497)と比較的遅く、大内氏が他の領国よりも遅く筑前の守護となった事情が反映している。求菩提山と同様、大内氏は所領をめぐる紛争を裁定したり、境内に禁制を下したりして保護に努め、これに対して雷山は祈祷に励み、山中の本堂に潮が満ちるといふ奇瑞を起こしている。

#### <引用文献>

- ・平瀬直樹『大内氏の領国支配と宗教』(塙書房、2017年)
- ・第1回九州山岳霊場遺跡研究会資料集『北部九州の山岳霊場遺跡 近年の調査事例と研究視点』(九州山岳霊場遺跡研究会発行、2011年)
- ・『九州山岳霊場遺宝 海を望む北西部の山々から』(九州歴史資料館編集・発行、2021年)

#### (2)山岳霊場で「行」に従事する集団

顕密寺院の多くは山岳霊場に立地している。比叡山延暦寺や高野山金剛峯寺はもちろんのこと、興福寺や東大寺のように平地に伽藍がある奈良の寺院の場合も、春日山など近くの山系を行場として聖域に取り込んでいるので、山岳霊場に似た立地である。

顕密寺院では正統的な密教の教義を学ぶ学僧が上層身分となり、「行」に特化した僧が、堂衆、夏衆、禅衆、律衆と呼ばれるような中下層身分を構成した。さらに、山岳霊場にはそこに所在する顕密寺院の組織の外部に山伏(修験者)の集団が存在した。

上記の中下層身分と山伏は、同じ山岳霊場で「行」に従事しながらも本来は異なる集団であり、歴史学と民俗学の分野で別々に研究されて来た。しかし、顕密寺院が山岳霊場に立地する以上、同じ行場で修行する中下層身分と山伏との関係は考察すべき問題であると考えられる。

#### 山伏が中下層身分に加わる運動 - 紀伊国高野山長床衆 -

室町時代に紀伊北部の顕密寺院の中下層身分は行人と呼ばれており、高野山、根来寺、粉河寺の「三ヶ寺」行人は、連帯して勢力を強大化させた。高野山の場合、組織外の存在であった長床衆という山伏集団が、鎌倉後期に高野山の荘園支配の先兵として起用されたことをきっかけに行人集団に加わった。

高野山の長床衆は本来高野山の鎮守社である丹生都比売神社に仕えていた。「長床衆」と称する山伏集団は、高野山のほか紀伊の熊野や九州の脊振山、英彦山、求菩提山といった山岳霊場にも見える。神社の「長床」(本殿の前の大きな拝殿)を本部とし、それを集団のアイデンティティーにしていたようである。高野山の事例から諸国の「長床衆」について類推すると、室町時代に山伏は顕密寺院の組織に入って行き、山岳霊場に修験的な性格を増大させて行ったことが想定できる。

#### 中下層身分が山伏に加わる運動 - 東大寺法華堂衆 -

東大寺には「行」に従事する中下層身分で法華堂衆という集団があった。室町時代に

なると法華堂衆は当山派の山伏の「行」に参加するようになった。法華堂衆の場合、自己の集団に伝来した文書群である「法華堂文書」が多数現存しており、集団の内部について詳細に調べることができる。

「法華堂文書」のうち文和2年(1353)の「東大寺法華堂衆定忍重申状」に注目した。これは定忍という法華堂衆が、自分よりも後に出家した者が、「当行」に従事しているという理由で定忍の上位に位置したことを不当とし、東大寺の上層部に提出した訴状である。この事件から、法華堂衆は、山伏に混じって「当行」という修験の「行」に打ち込む「本家法花堂衆」と、荘園に戻って農民的な生活を営む「庄家法花堂衆」という二つの生活スタイルを交互に繰り返していることがわかった。このようなサイクルは、法華堂衆が時代の激変にさらされながらも、無理なく自己の行法と集団を維持して行くことを可能にしたと考えられる。

#### <引用文献>

- ・時枝務・長谷川賢二・林淳『修験道史入門』(岩田書院、2015年)。
- ・関口真規子『修験道教団成立史 当山派を通して』(勉誠出版、2009年)から第1部第1章「東大寺堂衆と修験道」及び第2章「三ヶ寺」行人と修験道」。
- ・勝山清次編『南都寺院文書の世界』(思文閣出版、2007年)。

### (3)加賀一向一揆の担い手

#### 担い手を指す表現

長享2年(1488)の一揆について、「蔭涼軒目録」や「親長卿記」は「土一揆」と呼んでいる。「北野社家引付」と「天正三年記」には「百姓中」とある。近世に編纂された軍記では、「官知論」は「土民等」、「賀越鬪謬記」は「土民・百姓等」と記している。

「百姓」、「土民」、「土一揆」

- ・百姓：戦国時代では、山城国上下久世荘や播磨国鷓荘の事例のように、「百姓」と呼ばれる農民の実態は複雑であり、「村の侍」と言うべき武士への上昇志向を持つ有力農民(土豪や地侍とも呼ばれる)を含んでいる。
- ・土民：播磨国土一揆の場合は土一揆の主体として認識され、山城国一揆の場合は国人と土民が対比されており、いずれにしても「土民」は、「村の侍」を含む農民階層を指し、武士を含まない表現である。
- ・土一揆：「土一揆」は正長の土一揆や嘉吉の土一揆のように徳政を求める暴動を起こす人々を指すことばである。すなわち「村の侍」を含む農民や馬借などを指すと考えられる。

以上、当時の記述から判断されることは、加賀一向一揆の担い手は、諸国の土一揆に見られるように「村の侍」を含む多様な階層の農民たちである。

#### <引用文献>

- ・神田千里『一向一揆と真宗信仰』(吉川弘文館、1991年)第4章「加賀一向一揆の発生」(初出は1981年)。
- ・稲葉継陽『戦国時代の荘園制と村落』(校倉書房、1998年)第6章「村の侍身分と兵農分離」。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平瀬直樹	4. 巻 3343
2. 論文標題 （書評）小村純江『妙見信仰の民俗学的研究 - 日本の展開と現代社会』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週刊 読書人	6. 最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 平瀬直樹
2. 発表標題 白山信仰と加賀一向一揆
3. 学会等名 石川県民大学校 ふるさとモット学び塾 ふるさとふれあい講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平瀬直樹
2. 発表標題 中世の石山寺-真言密教寺院として-
3. 学会等名 放送大学 公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 平瀬直樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 清文堂	5. 総ページ数 142
3. 書名 塩田の村	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------